

米国 2ヵ月連続で減少も高水準の貿易赤字持続 (06年3月貿易統計)

発表日：06年5月12日(金)

～対カナダでの貿易赤字が大幅に縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支 (U. S. International Trade in Goods and Services)

	貿易収支			輸出		輸入			
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports	財 Goods	Imports	財 Goods		
05/03	▲537.44	▲586.74	+49.30	+1.4	(+7.9)	+1.2	▲3.1	(+10.1)	▲3.7
05/04	▲576.18	▲620.97	+44.79	+2.8	(+11.8)	+4.2	+4.3	(+14.3)	+5.0
05/05	▲559.72	▲605.64	+45.92	▲0.0	(+9.5)	▲0.1	▲1.0	(+11.3)	▲1.2
05/06	▲591.29	▲636.11	+44.82	+0.1	(+12.2)	+0.1	+2.0	(+10.5)	+2.3
05/07	▲573.55	▲623.21	+49.66	+0.9	(+10.9)	+0.7	▲0.5	(+11.2)	▲0.5
05/08	▲584.62	▲638.44	+53.82	+1.6	(+12.3)	+2.2	+1.7	(+10.7)	+2.3
05/09	▲655.85	▲711.04	+55.19	▲2.3	(+8.5)	▲4.2	+2.8	(+14.7)	+2.9
05/10	▲678.36	▲729.38	+51.02	+1.4	(+9.0)	+2.4	+2.1	(+13.7)	+2.5
05/11	▲644.62	▲693.51	+48.89	+1.7	(+10.7)	+2.8	▲0.9	(+10.2)	▲1.0
05/12	▲650.74	▲701.41	+50.67	+2.2	(+9.7)	+2.5	+1.7	(+12.9)	+1.9
06/01	▲685.87	▲735.44	+49.57	+2.5	(+12.0)	+3.1	+3.6	(+14.0)	+3.9
06/02	▲656.43	▲698.16	+41.73	▲1.6	(+11.1)	▲1.5	▲2.6	(+10.4)	▲3.2
06/03	▲620.00	▲667.20	+47.20	+1.9	(+11.6)	+2.2	▲0.8	(+12.9)	▲0.9

(注1) 季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。

(注2) 輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
		産業資材 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		産業資材	資本財	自動車	消費財
05/09	▲4.3	▲5.8	▲7.4	▲0.3	+4.1	+2.9	+6.7	+1.1	▲3.6	+2.7
05/10	+2.1	+0.3	+6.2	+2.0	▲5.6	+2.5	+6.3	▲0.5	+3.8	+0.9
05/11	+2.8	+2.3	+3.8	+2.1	+6.3	▲1.0	▲2.0	+0.4	+0.8	▲2.7
05/12	+2.7	+3.1	+0.7	+4.7	+6.3	+1.9	+0.1	+2.1	+2.3	+5.0
06/01	+2.8	+5.0	+2.9	+0.7	▲1.2	+3.9	+2.6	+3.9	+5.6	+2.9
06/02	▲1.5	▲1.4	▲0.7	▲1.8	▲0.8	▲3.2	▲0.6	▲4.7	▲5.9	▲2.5
06/03	+2.1	+6.0	+1.5	▲4.2	+1.7	▲0.9	▲6.6	+4.5	▲3.5	+2.5

(注) 季節調整前月比伸び率。

*1: Industrial supplies and materials

*2: Capital goods, except automobiles

*3: Automobiles vehicles, parts and engines

*4: Consumer goods, except automobiles

	輸出					輸入						
		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本	
05/09	+6.8	+10.5	+10.5	+3.5	+2.8	▲0.1	+15.9	+18.8	+14.5	+13.6	+10.6	+3.3
05/10	+7.9	+10.2	+7.6	+4.0	+8.7	▲4.6	+15.4	+20.1	+12.2	+14.5	+12.7	+6.9
05/11	+13.2	+10.4	+12.8	+11.8	+12.5	+9.0	+11.2	+14.1	+13.7	+9.0	+7.2	+2.4
05/12	+11.5	+9.7	+14.5	+7.2	+9.6	+11.0	+13.4	+22.7	+17.8	+4.3	+11.0	+4.7
06/01	+13.6	+11.6	+19.1	+8.0	+15.8	+10.5	+18.1	+20.6	+24.2	+12.7	+12.7	+6.5
06/02	+13.6	+9.3	+15.8	+8.1	+11.8	+10.1	+10.9	+13.5	+16.6	+4.3	+6.0	+6.0
06/03	+15.2	+12.2	+21.5	+13.3	+16.2	+8.3	+13.8	+10.9	+19.2	+11.6	+13.7	+1.2

(注1) 未季調前年比伸び率。

(注2) 中南米はメキシコを含む(原統計の「中南米」は含まない)。

620.0億ドルの赤字に縮小

06年3月の米国の貿易収支(サービスを含む国際収支ベース、季節調整済)は、620.00億ドルの赤字(前月比▲5.5%)と、2ヵ月連続で縮小した。対カナダでの貿易赤字が縮小したことなどによって市場コンセンサスの▲670億ドルを下回ったものの、高水準の貿易赤字が持続している。財収支の赤字額の縮小に加えて、サービス収支の黒字額が拡大した。

輸出は、自動車の減少が続いたものの、消費財、産業資材、自動車を除く資本財

の増加により前月比+1.9%と拡大した。一方、輸入は自動車を除く資本財、消費財が増加したが、産業資材、自動車が減少したため同▲0.8%と2ヵ月連続のマイナスとなった。原油は輸入量が3億1247.9万バレルに増加したが、価格が1バレル=52.26ドルと低下したため前月比▲8.7%となった。

2月の貿易赤字が下方修正されたうえ、3月の貿易赤字額が1～3月期のGDP速報を作成した時に商務省が予想した水準よりも縮小した結果、1～3月期の純輸出のGDP寄与度は速報の前期比年率▲0.84%から同▲0.14%程度に大幅に縮小すると予想される。

円高が進みやすい環境

ドルについては、当面大きな金利格差が残ること、米国経済が堅調さを維持することから、ドル買い需要が残存しよう。しかしながら、原油価格の高止まりや成長率格差によって米貿易赤字が高水準で推移すると予想され、経常赤字が縮小する可能性は低い。このような中、今年は中間選挙の年であり巨額の経常赤字が材料視され易いこと、さらに中間選挙に絡み元切り上げ圧力が強まること、米財務省高官が日本の口先介入に不快感を示すなど巨額の経常黒字を抱えた日本に対する通貨政策に変化の兆しがみられること等から、円には上昇圧力が掛かり易い。また、金利差に関しても、今後縮小が予想される。米国では金融政策が様子見に転じる可能性が高い（利上げが継続されてもその回数は多くない）。一方、日本では、景気の拡大が続くなか、今夏にもゼロ金利政策が解除され、その後も利上げが継続されるとみられることから、ドルの弱含みの展開が予想される（緩やかな円高）。テクニカルによる円高の目処は、109.21円、108.77円、108円、106.33円。

カナダ、NIESに対する赤字額が縮小

地域別収支では、対中国が▲156億ドル（前年比+20.7%）と旧正月の影響で縮小した前月から赤字額が拡大し、28ヵ月連続で地域別で最大の赤字国となった（貿易赤字全体の25.1%に拡大）。対欧州は▲101億ドル（同+8.6%）と拡大し高水準の赤字が続いている。また、対OPECが▲81億ドル（同+22.5%）、対日は▲76億ドル（同▲3.2%）と拡大した。一方、対NAFTAが▲108億ドル（同+15.8%）とカナダ向けのエネルギー関連、消費財等の輸出増加によって赤字額が大幅に縮小した。対NIESは▲5億ドル（同+105.4%）と縮小した。

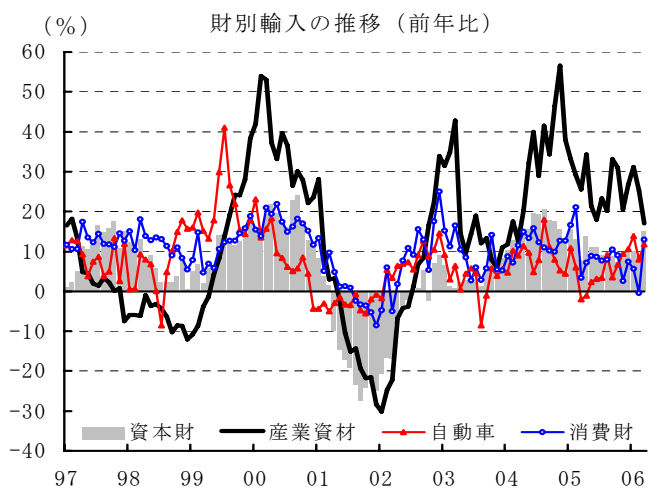
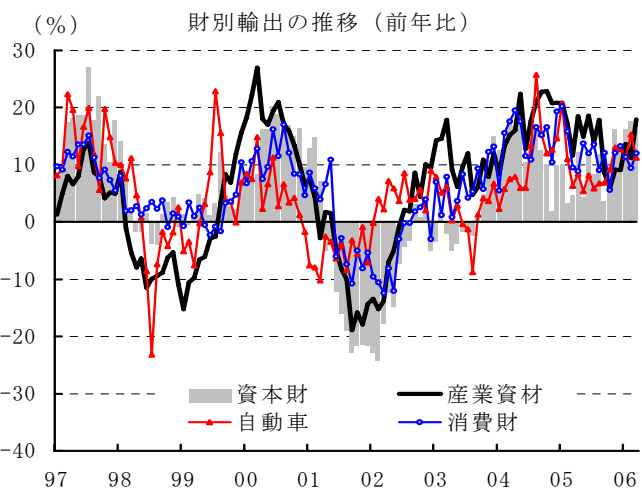
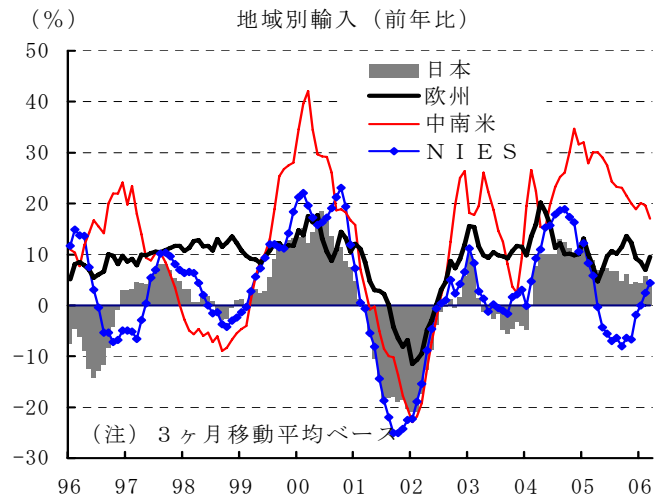
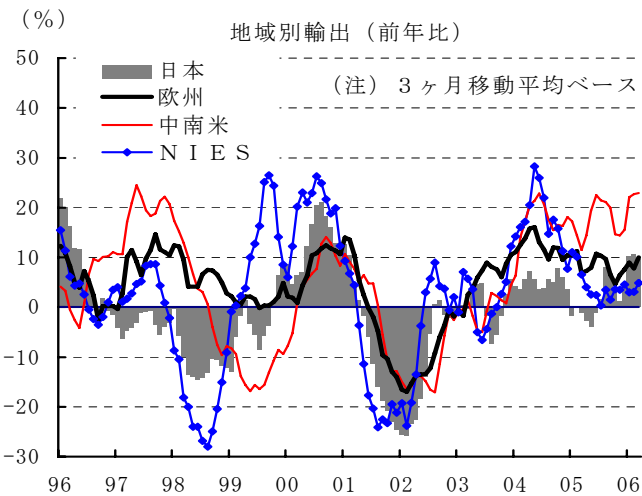
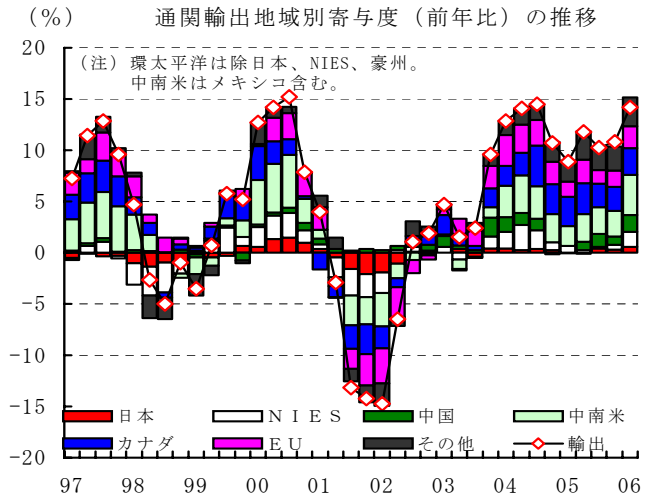
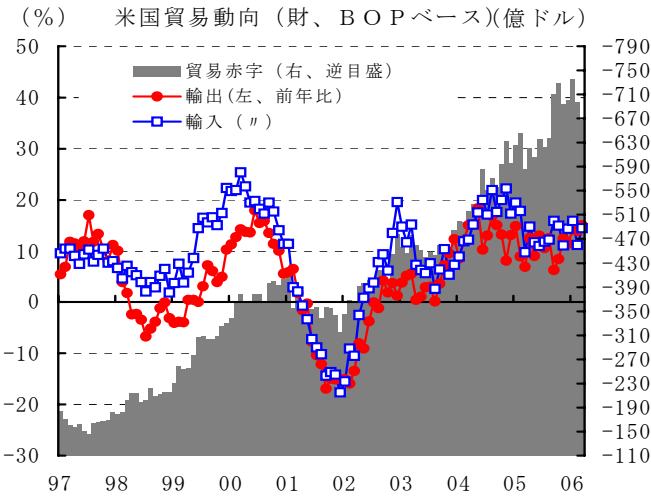
輸出が拡大に転じ、輸入は2ヵ月連続で減少

通関ベースでは、輸出は自動車が減少したものの、産業資材、消費財、自動車を除く資本財が増加したため前月比+2.1%となった。また、輸入も自動車を除く資本財、消費財が増加したが、自動車、産業資材の減少によって同▲0.9%と2ヵ月連続で減少した。

輸出の商品別内訳では、①産業資材は、燃料油、核燃料、金、石油製品、銅、化学等の増加によって前月比+6.0%となった。②資本財は、民間航空機が減少したものの、発電機・同部品、コンピューター部品、医療機器、コンピューター、研究室テスト機器等の増加により同+1.5%と増加した。③消費財は、アンティーク・骨董品・切手等が減少したが、ダイヤモンド原石、家庭用品、TVなどの増加によって同+1.7%と3ヵ月ぶりに拡大した。一方、④自動車は同▲4.2%と2ヵ月連続の減少となった。

輸入は、エネルギー関連の減少で2ヶ月連続縮小

輸入の商品別内訳では、①自動車を除く資本財輸入は、コンピューター、コンピューター部品、通信機器、石油掘削機、民間航空機エンジン、金属加工機器、民間航空機が増加したため前月比+4.5%と増加した。②消費財はその他の家庭用品、テレビ・ビデオ、アパレル、玩具・ゲーム・スポーツ用品が減少したものの、調剤薬、アンティーク・骨董品・切手、ステレオが増加したため同+2.5%となった。一方、③自動車は同▲3.5%と2ヶ月連続で縮小した。④産業資材は、原油、天然ガス、液化天然ガス、石油製品、銅、燃料油、化学、鋼材、鉄・鉄鋼ミルが減少したため同▲6.6%と縮小幅が拡大した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。